

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

| | | | |
|-------|------|-----------------|-------------|
| 芦田 | 中学校区 | 校番 17 | 福山市立 芦田中 学校 |
| 最終更新日 | | 2026年(令和8年)4月1日 | |

I 福山市

| | |
|------|---------------------------------|
| めざす姿 | すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現 |
|------|---------------------------------|

II 中学校区

| | | | |
|---|---|------------------------|--|
| 前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容 | 児童生徒の現状 | 育成する 資質・能力 | 課題発見・解決力、対話力、思いやる力 |
| <ul style="list-style-type: none"> 評価に係る写真資料などをもとに、学校の取組や近況を具体的に説明した。 各学校教育目標の実現に向けた、取組に対する評価を行った。 行事の開催や取組の仕方について、保護者・地域住民の方々と連携を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた状況と温かい雰囲気の中で、生き生きと活動をしている。 基礎学力は概ね定着しており、学習に対する意欲は高い。また、協働的に課題を解決しようとする意欲も見られる。 友だちの意見から自分の考えを深めることができるが、表現することには、課題がある。 | めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) | ふるさと芦田に愛着と誇りをもち、未来を切り拓き、たくましく生きる児童生徒 |
| | | 中学校区として統一した取組等 | 「児童生徒主体の学び」の創造 ○取組推進のための校区全体研修会による活動 <ul style="list-style-type: none"> 考えを深め、表現する授業づくり（主体的・対話的・深い学び） 考え、議論する道德の授業づくり（理論研修・教材分析・授業研究会） 学力・体力向上（調査結果の分析・改善策の検討・取組実施） |

III 自校

| |
|---------------------|
| 学校教育目標 |
| 学びあい、尊びあい、高めあう生徒の育成 |

| |
|--|
| 現 状 |
| <p><生徒> グループで協働的な活動を通して、自分の意見を伝えたり、友だちの意見を聞いて、思いを受け止めたりすることができるようになっている。体育大会では、リーダーを中心に生徒自身の力で心に残る行事をつくりあげた。文化祭では、日々の学びを整理し、他者を意識した発表をつくりあげた。これらの活動を通して、「自分は人の役に立てた。」「他者のよいところに気付いた。」と考える生徒は90%を超えるが、一方で「自分には良いところがある。」と回答する生徒は77%にとどまっている。</p> <p><授業> 課題設定を工夫して課題解決学習を取り入れたり、単元構成の工夫をしたりして、この単元で何が身に付くのかという見通しを生徒がもてるよう授業改善に取り組んだ。「授業の課題を友だちと協力して解決することが面白い。」の肯定的評価(88.9%)と比べて、「授業の課題を自分から進んで考えることが面白い。」の肯定的評価は低く(81.9%)、主体的な学びづくりに課題がある。また、他の生徒から出た考えを聞いて、自らの考えを修正したり、深めたり、表現したりしていくことについても課題がある。</p> |

| 育成する力 資質・能力 | 課題発見・解決力 | 対話力 | 思いやる力 |
|----------------|--|--|--|
| めざす 子ども像 | 小1・2 課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしたりしながら表現している。 | 自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。 | 学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。 |
| | 小3・4 課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしたりしながら解決している。 | 友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。 | 学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。 |
| | 小5・6 中1 自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。 | 話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。 | 学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、親切にしている。 |
| | 中2・3 自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。 | 多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。 | 地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心もち、その気持ちを行動や言葉に表している。 |

| | | |
|----|-----|--|
| 研究 | テーマ | 主体的な学びを育む |
| | 内容等 | 生徒のもっている能力を伸ばすため、聞くことが中心の一斉授業から対話形式の授業へ転換していくことで、すべての生徒に学ぶ機会を提供していく。そのことを通して、生徒の主体的な学びにつなげていく。さらに、生徒の実態に合わせた課題設定の難易度を上げることで、協働的で深い学びを実現していく。 |

| | |
|---------|--|
| めざす授業の姿 | 授業形態をグループ学習、ペア学習活用し、授業者が授業をファシリテートしながら、主体的、対話的で深い学びになる授業を展開していく。また、その際に重点を置いていくことは、「わからない」「間違い」を大切に、教師主導型の一斉授業とグループ学習、ペア学習のバランスをとっていく。 |
|---------|--|

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 芦田中 学校

| 年 目 | 中期経営目標 | 重 点 | 分 類 | 短期経営目標 | 目標達成に向けた取組 | 評価指標 | 中間評価（10月1日） | | | | 最終評価（2月末） | | | |
|-----|--|-----|-----|---|--|--|-------------|--------|------|------|--------------------------------|--------|------|------|
| | | | | | | | □指標に係る取組状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 改善方策 | □指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況 | プロセス評価 | 達成評価 | 総合評価 |
| 1 | 主体的、対話的で深い学びにより、学ぶ意欲を高め、学力向上を図る。 | ★ | 新規 | ファシリテートを意識した授業づくりをする。生徒の疑問、分からない、間違えを中心にした授業づくりを行う。 | 授業形態を教師主導の一斉授業とグループ学習、ペア学習を行うことで、基礎基本の定着を図る。高いレベルの課題を設定することで、基礎基本の定着と、深い学びに取り組む。 | ①「分からないことを分からないといえる。」②「授業の課題を友だちとの対話を通して解決することができる。」という生徒の肯定的評価を①80%②85%③定期テストにおいて、40%未満の生徒30%未満にする。 | | | | | | | | |
| 2 | 芦田マインド（優しさ、思いやり、聴く心、ありがとうの気持ち、役に立つこと）～真心・感謝・貢献～を意識し、自他を認め、落ち着いて行動し、人の役に立てる生徒を育成する。 | | 見直し | 自己と他者の良いところを認め、他者に関わる中で、相手への優しさをもって行動する生徒を育てる。 | 普段の生活や行事を通して、人のために行動できた場面を適切に評価する。また、他者との関わりの中で、お互いに高め合える集団づくりをする。 | ①「相手のことを考えて行動することができる。」②「ありがとうがちゃんとと言える。」③「他者のために行動することができた。」という生徒の肯定的評価を①90%②90%③90% | | | | | | | | |
| 1 | 基本的生活習慣の定着 | | 新規 | 「7つ目標」を意識して生活する生徒を育てる。 | 定期的に「メディアコントロール週間」を設定し、生徒が主体的に自らの生活習慣を見直すことで、どうすべきかを考える場を設定していく。 | ①「ゲームやスマートフォンの利用時間の目標を各自が設定し、目標達成」という生徒を80%以上にする。②「毎日朝食を食べている」生徒を90%以上にする。 | | | | | | | | |
| 5 | 保護者・地域に開かれた学校づくりと、教職員が意欲的に働ける職場づくりをする。 | | 見直し | 学校の様子について、保護者・地域へ積極的に情報発信をすることにより、理解を図り、信頼される学校運営をする。 | 日々の取組や行事、生徒の活動の様子などを通信・すぐーる配信などで、月2回以上発信する。 | 「通信やすぐーる配信などで、学校や各学年の様子、地域での活動の様子がよくわかる。」という保護者の肯定的評価の割合を90%以上にする。 | | | | | | | | |
| | | | 見直し | 教職員が快適に勤務できる環境を整えることにより、生徒の学びを深める学校運営をする。 | 『翌月の行事予定』を配布し、計画的な業務遂行を進める。その際、効率化・精選などを図ることにより、生徒との時間を保障する。 | ①「効率化・精選などを意識して、業務を行った。」という教職員の肯定的評価を90%以上にする。②時間外在校時間が、月45時間以内の教職員を70%以上にする。 | | | | | | | | |

[プロセス評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|--|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

[達成評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|------------------------|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 | |
|----|-----------------|-----------------|
| 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |